

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 03219864
PUBLICATION DATE : 27-09-91

APPLICATION DATE : 15-06-90
APPLICATION NUMBER : 02158111

APPLICANT : OOEKI SYUZO KK;

INVENTOR : NUNOKAWA YATARO;

INT.CL. : C12G 3/04 // B65D 83/34 B65D 83/36

TITLE : ALCOHOLIC DRINK PACKED IN AEROSOL CAN

ABSTRACT : PURPOSE: To make it possible to readily drink a slightly foaming liqueur in fresh state without volatilizing smell and oxidation of content even after opening the stopper of an aerosol can by packing the alcoholic drink having a high concentration into the aerosol can and further packing carbonic acid gas, nitrogen gas, etc., into the can.

CONSTITUTION: A liqueur (having 25-60vol.% alcohol content) adjusted taste thereof by consisting essentially of 20-60wt.% high-concentration alcoholic drinks having 30-96vol.% alcohol content, 20-60wt.% saccharides (e.g. isomerized glucose syrup), 10-50wt.% fruit juice and 0-50wt.% water and, as necessary, by properly adding a flavor and a pigment, is prepared and charged to an aerosol vessel, and carbonic acid gas or nitrogen gas or mixed gas of the both is packed therein to provide the alcoholic drink contained in aerosol vessel.

COPYRIGHT: (C)1991,JPO&Japio

XP-002135570

AN - 1991-329101 [45]

AP - JP19900158111 19900615

CPY - OZEK-N

DC - D16 Q34

DR - 1066-U 1738-U

FS - CPI;GMPI

IC - B65D83/34 ; C12G3/04

MC - D05-B

PA - (OZEK-N) OZEKI SAKE BREWING

PN - JP3219864 A 19910927 DW199145 000pp

PR - JP19900158111 19900615; JP19890302630 19891121

XA - C1991-142213

XIC - B65D-083/34 ; C12G-003/04

XP - N1991-252047

AB - J03219864 Alcoholic beverage in aerosol can, is obtd by filling aerosol can with high conc alcoholic beverage having alcohol content of 25 - 60 vol%, and then introducing into the can CO₂, N₂ or mixed gas thereof.

- Alcoholic beverage in the can may be a mixt of 20 - 60 wt% of alcoholic beverage of alcohol content of 30 - 96 vol%, 20 - 60 wt% of sugar and 10 - 50 wt% of fruit juice. Alcoholic beverage can maintain its flavour without oxidn for a long period of time. Alcohol includes whisky, spirits, brandy, Sake, wine, etc. Sugar includes sucrose, glucose, fructose, etc. Gas pressure in the can is 2 - 10 kg/cm². (3pp Dwg.No.O/O)

IW - ALCOHOLIC BEVERAGE AEROSOL CAN OBTAIN FILL CAN HIGH CONCENTRATE ALCOHOLIC BEVERAGE FOLLOW INTRODUCING CARBON DI OXIDE NITROGEN GAS

IKW - ALCOHOLIC BEVERAGE AEROSOL CAN OBTAIN FILL CAN HIGH CONCENTRATE ALCOHOLIC BEVERAGE FOLLOW INTRODUCING CARBON DI OXIDE NITROGEN GAS

NC - 001

OPD - 1989-11-21

ORD - 1991-09-27

PAW - (OZEK-N) OZEKI SAKE BREWING

TI - Alcoholic beverage in aerosol can - obtd. by filling can with high conc. alcoholic beverage followed by introduction of carbon di:oxide and nitrogen gases

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-219864

⑬ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)9月27日

C 12 G 3/04
// B 65 D 83/34
83/36

8114-4B

7724-3E B 65 D 83/14

Z

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

⑮ 発明の名称 エアゾール缶入りアルコール性飲料

⑯ 特 願 平2-158111

⑰ 出 願 平2(1990)6月15日

優先権主張 ⑱ 平1(1989)11月21日 ⑲ 日本(JP) ⑳ 特願 平1-302630

⑲ 発 明 者	梅 原 康 夫	兵庫県神戸市北区小倉台2丁目17番地の5
⑲ 発 明 者	徳 井 順 子	大阪府大阪市北区本田2丁目7番3号
⑲ 発 明 者	苅 田 修 一	兵庫県西宮市今津社前町4番23号
⑲ 発 明 者	浜 地 正 昭	兵庫県神戸市北区筑紫ヶ丘4丁目3番5号
⑲ 発 明 者	本 馬 健 光	兵庫県宝塚市光ガ丘1丁目2番26号
⑲ 発 明 者	布 川 弥 太 郎	兵庫県芦屋市平田町2番26号
⑲ 出 願 人	大関酒造株式会社	兵庫県西宮市今津出在家町4番9号
⑲ 代 理 人	弁理士 青 山 葆	外1名

明 細 書

1. 発明の名称

エアゾール缶入りアルコール性飲料

2. 特許請求の範囲

(1) アルコール分25～60容量%の高濃度アルコール性飲料をエアゾール缶に詰め、炭酸ガス、窒素ガスまたは両者の混合ガスを充填して得られるエアゾール容器入りアルコール性飲料。

(2) アルコール分30～96容量%の高アルコール分酒類20～60重量%、糖類20～60重量%および果汁10～50重量%を配合してなるエアゾール容器入りアルコール性飲料用酒。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は、炭酸ガス、窒素ガスまたは両者の混合ガスを充填したエアゾール容器入りアルコール性飲料に関するものである。

[従来の技術および課題]

従来、料飲店においては、各種のアルコール性飲料に果汁や香辛料などを飲む直前に混ぜ合わせ

てリキュール類が作られているが、この方法は、混合割合が一定せず、誰でも同じような香味に配合することは容易でなく、手間もかかることである。

また、酒販店においては、すでに混合したものを瓶や缶に詰めて販売されているが、瓶入りのものは一度開栓すると香りがとびやすく、また、内容物も空気に触れて酸化し、変化を受けやすい。缶入りのものは、特に開缶後に変化しやすく1回限りの使用のものが多い。さらに、炭酸水は、開栓後は炭酸ガスが揮散してしまうので、1回きりであり、炭酸水を使う場合でも、その都度備えておく必要があり、不便である。

本発明者らは、かかる不都合、不便を解決するため種々検討する間に、近年、食品の分野でも利用されだしたエアゾール容器を用いることによりその目的が達成できることを見出した。

[課題を解決するための手段]

本発明は、アルコール分30～96容量%の高アルコール分酒類(1種類あるいは、2種類以上

の酒類を混ぜ合わせたもの)20~60重量%、糖類20~60重量%、果汁10~50重量%、水0~50重量%を主成分とし、所望により、着香料、着色料を適時加えて香味を調整した高濃度リキュール(アルコール分25~60容量%)とし、エアゾール容器に入れ、炭酸ガス、窒素ガスまたは両者の混合ガスを充填したエアゾール容器入りアルコール性飲料を提供するものである。

本発明において用いる高アルコール分酒類は、焼酎、スピリッツ、ラム、ウィスキー、ブランデー、ウォッカ、ジンなどの通常の蒸留酒類、梅酒、キュラソー、ベルモットなどのリキュール類、清酒、ブドウ酒、シェリー酒、またはその他の酒類で、これらの酒類を1種類あるいは2種類以上混ぜ合わせ、要すれば、醸造用アルコールを加え、アルコール分を30~96容量%としたものである。

ここで、アルコール分30容量%未満の酒類では、全体のアルコール性飲料中のアルコール分が低すぎて、果汁や糖類を添加することにより、よ

味なアルコール性飲料を最後まで、供することができる。

[実施例]

実施例1

醸造用原料アルコール(アルコール濃度95容量%)1700ℓに異性化液糖1900kg、ピーチ5倍濃縮果汁1700kgを加えて、良く混合し、220ℓ容アルミ製エアゾール缶をあらかじめ炭酸ガスで置換した後、190ℓずつ充填し、炭酸ガス5gを充填した。

このピーチ果汁入りリキュール約15ℓに氷水45ℓを加えて飲む。

この缶1本で、約13杯のリキュールを飲むことができ、更に缶の容量を大きなものとし、それに対応したリキュールを充填すれば、飲用杯数も適宜増大させることができる。

また、保存においては、ピーチの香りがいつまでも残っており、炭酸ガスで充填されているため、ほとんど果汁の褐変反応も起こらない。

リアルコール分が下り、容器当り飲用に供される杯数が1~3杯程度となり、容器の大型化も考えられるにしても飲用回数が少なくなるので、エアゾール容器の利点・特徴が出しにくい。

つぎに、用いる糖類としては、異性化液糖、砂糖、ぶどう糖、果糖、はちみつなどが挙げられる。さらに、果汁としては、パイナップル、イチゴ、メロン、グレープフルーツ、パッションフルーツ、桃、リンゴ、梅、ライム、レモン、グレープ、マンゴ、バナナなどの天然、濃縮、人工果汁が挙げられる。これら、糖類、果汁はその風味上から、前記の配合割合とする。

また、必要に応じて着色料、着香料を用いて、より味なアルコール性飲料とすることができる。

このアルコール性飲料をエアゾール容器、例えば、アルミ製エアゾール缶に詰め、炭酸ガス、窒素ガスまたは両者の任意の割合の混合ガスをガス圧を、充填時5~20kg/cm²、充填後2~10kg/cm²に充填することにより、手軽で簡単にファッションブルかつ好みに応じたアルコール分の、

実施例2

アルコール分50容量%のウォッカを、容量220ℓのアルミ製エアゾール缶をあらかじめ炭酸で置換した後、190ℓずつ充填し、炭酸ガス5gを充填した。

飲料に供する時は、このウォッカ20ℓにオレンジジュース40ℓを加えることにより、手軽にスクリュードライバーを作ることができる。その他果汁を用いて種々のカクテルを手軽に作ることができる。

実施例3

アルコール分25容量%の梅酒を、容量260ℓのアルミ製エアゾール缶に、190ℓずつ充填し、炭酸ガスと窒素ガスの体積比で4:4対5:6の混合ガス1.3gを充填した。

この炭酸ガスと窒素ガスの混合ガスは梅酒中に溶け込む炭酸ガス量が0.5kg/cm³未満となり、酒税法上の発泡性を有する酒類とならず、また、窒素ガスにより、内容物も酸化されず、香味に影響を与えず、全量を噴出させることができる。

〔発明の効果〕

本発明のエアゾール容器入りアルコール性飲料は、従来の瓶入りリキュール等のように開栓後、置いておくと香りが揮散し、また、内容物が酸化されることもなく、いつまでも誰でも手軽に新鮮な状態で美味しい微発泡性のリキュールを飲むことができる。

特許出願人 大 関 酒 造 株 式 会 社
代 理 人 弁 理 士 青 山 保 ほか1名